令和4年度・第9回未来会議（全体会）議事録

鹿ノ台未来まちづくり会議（未来会議）会長　須都　紘
副会長兼書記・広報　伊藤　智子

日時：　令和4年12月18（日）13：30～16：40

場所：　西集会所

出席者（順不同、敬称略）：
須都　紘（会長）、黒部　實（副会長）、伊藤　智子（副会長・書記・広報）、
山田　勲、三室　哲哉、黒田　勝行、平井　誠三、山田　修、山地　祐輔

欠席：　田口　信義、中世古　昭一、鎌田　卓（事務局長・会計）、鈴木　豊、
谷猪　富貴子、渡辺　昇、蔵田　かほり

会議の成立要件について：
未来会議の構成員は現在16名。本日の出席9名に加え、2名より委任状の提出があった。合計 11 名となり、会議成立に必要な3分の2の定足数を満たした。

配布資料：
① 令和4年度第9回（12 月）未来会議（全体会＆分科会）議題（案）V3
② 鹿ノ台中央公園の利用に関するアイデアを募集します（案）3種
（自治会世帯向け、中学生向け、小学生向け）
③ 鹿ノ台中央公園の利用に関するアイデア募集　スケジュール案
④ 分科会「高齢者にやさしい支え合いのまちづくり」
⑤ 生駒市コミバス『たけまる号』鹿ノ台線　実証運行　乗車実績（人数）
11 月度
⑥ 生駒市コミバス『たけまる号』鹿ノ台線　実証運行実績　分析　11 月度
⑦ 鹿ノ台コミバスニュース No.3（回覧チラシ）
⑧ 奈良県域水道一体化（事業統合）に関して
⑨ 「生駒市の水源がすべてなくなる！」（チラシ）
⑩ 未来会議令和5年度予算（案）子育て分科会

新たな構成員候補について

北3丁目の平尾　英城さんが未来会議の構成員に応募された。地域の関係者3名から推薦を受けている。規約では、未来会議会長と連合会長との協議を経て、連合役員会で承認を得ることになっている。連合会長との協議で合意を得たので、1月の連合役員会に諮り、1月より正式メンバーになっていただく予定である。平尾さんは生駒市職員で、自治会でも評議員を経験されている。 ⇒　了承

分科会報告

子育て分科会活動報告

11月6日のイベント「ふれ愛 in 鹿ノ台」のふりかえり：
今年度は「家庭教育支援チームたけのこ」との共催だったが、来年度は子ども分科会単独で同様のイベントを実施すべく企画を進めている。鹿ノ台中央公園の魅力向上プロジェクトの予算と共に、次年度の予算を申請していく。

鹿ノ台中央公園の魅力向上プロジェクト：
・中央公園の利用に関して、全戸配布のアンケートを行う予定で準備を進めてきたが、幹事会でのアドバイスに基づき、「アイデア募集」を行うことに変更したい。理由は、緊急性・優先度が高くない案件なので、回収は評議員の手をわずらせることなく、いきいきホールに投函していただく形を予定しており、関心をお持ちの方のご意見を頂く方が良いとの判断である。

・このアイデア募集の趣旨は；
1. 鹿ノ台の少子高齢化が進むことで、地域の小中学校・図書館などの公共施設、商店やスーパー、医療機関、バス便などが現状を維持できずに先細ることにより、住民の生活が不便になってしまう可能性があること、
2. それを避けるために子育て世代を鹿ノ台に呼び込むことが必要であること、
3. そのための方策の一つとして、中央公園という住宅街の真ん中の広大な公園を、より魅力的な場所にしたいこと、
4. そのためのアイデアを広く募りたいこと、にある。

・このアイデア募集は、同じ趣旨で、自治会員向け（回覧で全戸配布）、中学生向け（学校配布）、小学生向け（学校配布）の3種を作成した。アイデア募集の理由については、小学生向けにも分かりやすい言葉で説明を入れた。現在も、地域のお祭りの歴史や ECOKA 委員会の景観維持の活動などについて小学生が理解を深める授業が行われており、小学生に地域の問題に関心を持ってもらうのは良いと考えた。

・今後のスケジュールは以下の通り；
1. 本日ご承認いただければ、1月8日の連合役員会に提案する。
2. 承認されたら「アイデア募集」を印刷し、配布を自治会と小・中学校にお願いし、2月10日（金）締め切りで回収を行う。
3. その後2月末までに集計・分析を行い、3月の未来会議で報告し、ワークショップ開催を提案する。
4. 4月の連合役員会に対してもアイデア募集の集計・分析結果を報告し、ワークショップ開催を提案する。
5. 承認されれば、5月からワークショップを行い、結果を6月以降の未来会議と連合役員会に報告する。

情報1：鹿ノ台は、計画人口1万人・2400区画で開発され、今は2800区画まで増えた。ピーク時の人口は 9,000 人ほどだった。2000 年代の 10 年で 200

人、2010年代の10年で700人減り、人口減少は加速度的に進んでいる。ただし最近は新しい人がずいぶん入ってきており、空き家率はさほど高くない。

情報2：アイデア募集の配布数は、自治会員2517 世帯（R4.11 時点）、小学生548名、中学生253名（R4.5.1 時点）で、合計で約3300通である。

質問：小・中学校での配布となると、美鹿の台・鹿畑町・高山久保・学研サイエンスに居住する子どもにもアイデアを募集することになるが、中央公園には鹿ノ台の外からも子どもたちが遊びに来ているのか。

回答：個人的に把握している範囲では、中学生では吹奏楽部の生徒が他地区から練習に来ていたり、他地区の生徒を含む数人でダンスの練習に来ていたりする。小学生では、10名以上の人数で遊ぶことも多く、その中の半数ほどが鹿ノ台の外から来ているというケースも少なくない。学校で配布してもらうということもあり、できればアイデア募集は校区単位で行いたい。

質問：連合役員会への提案は誰がやるのか。評議員への説明を求められることはないのか。

回答：連合役員会には通常、未来会議メンバーでもある連合役員会の田口さんまたは中世古さんに説明していただいている。自治会長から問い合わせることができるよう、伊藤を担当者として周知する。

⇒　中央公園の利用に関するアイデア募集について、内容とスケジュールについて了承した。

高齢者分科会

支え合い準備委員会について

・困り事を有する皆さまへのアンケートは、自治会員2517世帯に配布し、2204世帯から回収した（88％）。回収した困り事調査票の集計は12月20日までかかる予定だが、11月22日時点での暫定的な結果は以下の通りである：

--問題なし（1573世帯）　意見のみ（68世帯）
--困り事がある方の内訳（最終的にはもう少し増える予定）；
① ゴミ出し（20世帯）・ゴミ分別（6世帯）
② 電球交換（103世帯）・家電入替え（12世帯）
③ 越境枝（78世帯）・水やり（17世帯）
④ 送迎関係（32世帯）・買い物代行（13世帯）
⑤ 回覧回せない（24世帯）・電子回覧希望（451）
⑥ 不安がある（17世帯）・健康・サロン（41世帯）

・支え合いボランティア募集説明会は2回開催し、合計7名が参加した。ボランティア申込書を提出して下さったのは男性1名、女性4名の合計5名である。

・困り事の種別ごとに鹿ノ台の地図に印を記入するマッピング作業はほぼ終了しており、今後は支援を希望されている方に 1 軒 1 軒電話をし、詳細をうかがって対応を決めていく。電子回覧については今のところ対応をしない。

質問：ICT 委員会ではスマホ・PC の講習会を実施されてきたが、何人くらい参加されたのか。
回答：1 期生 45 名、2 期生 45 名。平均年齢は 70 代後半で、7、8 割が女性である。

質問：本来なら、支え合い準備委員会の委員14名が率先して作業を行い、それを応募したサポーターが助けるという形であるべきではないか。ところが、実際には委員14名のうちサポーター登録したのは2名に過ぎず、残り5名が応募してきたボランティアである。作業を担わない、現場が分からない委員が指図する構図はボランティア組織らしくないし、現実的でない。違和感がある。応募したサポーターも委員になるのか。
回答：委員が作業を分担するかどうかは、個々人の判断に委ねている。鎌田さんと黒田さんは電球交換を担当するサポーターに登録している。これから他の委員の役割分担も決めていく。作業が分担できない委員にも、できる人や業者を紹介するなどの手伝いをする人もいる。サポーターは委員にはならない。

質問：枝打ちや電球交換は、数十件もあれば大変ではあるが、いったん作業したお宅は当分やらなくて良いという性質の作業である。それに対してゴミ捨てには、悪天候であろうが必ず週に3回、朝7時前までに終えねばならない作業が何年も続くという性質がある。このような作業をボランティアさんにお願いするというのは、かなり無理があるのではないか。ゴミ出しについては、業者に数件まとめてお願いして料金を交渉することも可能かもしれないと聞いた。その方向で検討できないか。
回答：支え合いの活動については、全地区の福祉担当の評議員の方々に集まっていただき説明をした。ゴミ出しについても支援が必要な方々が確定できたので、その地区の隣近所の方でお手伝いいただける方を福祉担当の評議員と一緒に探していくという取り組みを予定している。福祉担当の評議員になったからといってゴミ出しを手伝わねばならないというわけではないと説明した。
意見：ゴミ捨ての問題で自治会の福祉担当にボランティア探しをしてもらうといような負担をかけることは止めて、事業者さんにお願いする方向で考えていって欲しい。そうでなくても自治会活動では、前任者がやっていたことはやらなければならない、という重圧がある。自治会離れを起こさないためにも、評議員の負担を増やすことは止めて欲しい。
意見：自治会活動が盛んという評判により、転入すると大変なのではと考えて転入をためらう人もいると聞く。子育て中に自治会長になって大変だという話も聞く。評議員の義務を増やすべきではない。そのためのサポーター募集ではないのか。

質問：高齢世代ではお互いの具合を心配したり、世話を焼き合ったりしたが、今は核家族で子どもも独立して、そういう関係でなくなっている。しかし、支え合い

準備委員会の活動などを通じて、そうした関係を取り戻すことも可能ではないかと思う。ただ、心の問題などに自治会が取り組むのは難しいのではないか。また、できないことは最初からできないとしてやらなくても良いのではないか？
回答：心の問題などは対応が難しいので今回の取り組みからは外そうという意見もあったが、委員の中にボランティアで心の問題に関わっている方がいるため取り組みたいとの意見もあった。他のメンバーも傾聴のオンライン公開講座を受けて卒業し、4名がこの問題を担当することになった。
意見：心の問題については、個人や市民ボランティア組織で取り組むのは良いが、自治会で取り組むのは違うのではないか。組織としてきちんと話し合ってほしい。

質問：プラスチック、ペットボトルなどのゴミの分別もサポートしていくのか？
回答：分別のサポートはしない。ただし、生駒市の有料ゴミ袋（黄色）に入れれば、金属や割れ物以外であれば未分別のゴミも回収してもらえるので、自身で分別のできない人にはそのような助言をしていく。また、数世帯をまとめて業者さんにお願いすることも検討中である。

意見：アンケートを取ったのであれば、対応してもらえると期待される。責任が伴うので、やれないことも整理して、理由を説明していくべきである。

交流分科会

鹿ノ台中央公園の使い方、特に演奏での利用について、もう少し使いやすい説明書を作ったらどうかという提案を行い、生駒市のみどり公園課と話し合っている。公共性のあるもの、教育目的のもの、個人のグループでの使用などの目的ごとに整理し、年明けまでにまとめる予定である。転入促進にも資する内容となるだろう。

令和5年度の予算について

子ども分科会

「ふれ愛 in 鹿ノ台」に準じるイベントを実施する予算として、イベント保険、ブース運営、消耗品などの合計で2万円、これに加えて鹿ノ台中央公園の魅力向上プロジェクトのワークショップのチラシと会場費の予算（金額未定）を計上したい。

意見：前回の「たけのこ」のイベント開催に関しては校区の幼稚園・保育園・小学校・中学校の在園児・在校生すべてにチラシを配布し、各自治会の掲示板にポスターを掲示したそうだが、校区外の幼稚園・保育園や小中学校に通っている子どもたちや自治会員世帯への周知が行われるよう、次回はチラシを回覧して欲しい。
回答：次回は回覧する。

高齢分科会

支え合い準備委員会は未来会議ではなく連合傘下の委員会として予算計上する。

交流分科会

来年の4月または5月にイベントを実施するかどうか検討中である。皆さんのご意見を伺いたい。

意見：前回の反省会でも出ていたが、鹿ノ台のアマチュア演奏者が出演される場合や、質の高いプロの演奏者のコンサートであれば、未来会議のメンバーとしても快くお手伝いできる。
意見：まったく同意見である。森のコンサートはそのどちらでもなかったと思う。前回のようなプロでもなく地域の人でもない演奏家のコンサートを、自治連合会の予算で未来会議が主催するというのは、違うのではないか。
意見：ふれあい音楽祭も、出演者に鹿ノ台の住民が入っていて、聞いていただけるレベルに達しているグループに演奏の場を提供してきた。加えて、質の高いプロの演奏も提供してきたが、プロにお願いするので費用がかかることもあり、批判もある。
意見：昨年のような計画が急遽変更される開催のあり方では今後は開催できない。昨年は午後 1 時からの予定でチラシも作成したが、演奏者が増え、1 グループあたりの時間も減らせないとして 11 時からの開催に急遽変わった。計画と実施の間に大きなギャップがあった。
意見：地安推としても、開始時間が急に早まったことで人手の確保に非常に困った。

意見：「森のコンサート」という名称だったが、コンサートと同時に様々なイベントが行われた。来年からは「桜祭り」のような名称にして、桜美会のお花見、音楽、キッチンカーの組み合わせとして開催したらどうか。また、演奏は、半分以上は鹿ノ台のグループに限定し、その他に校区の幼稚園・保育園・小中学校などから来てもらって演奏してもらう、あるいは子どもたちから公募するというような形で、実施を検討したい。

⇒ 来年も実施するかどうか、実施するとすればどのような形がよいか検討したい。

鹿ノ台コミバス11月度乗車実績について（報告）

・11 月の実証運行の日数は12日、乗車実績は累計 487 人、一日あたり平均 40.6 人で、これまでより少ない。
・乗車の比率については、午前が 6 割強で午後が 4 割弱である。バス停ごとの降車の割合は、いきいきホール前が 12％、つじもと医院前が 2％、登美ヶ丘が39％弱である。登美ヶ丘降車の内訳は、午前が 79％、午後が 21％である。
・登美ヶ丘からの乗車は全体の 47％を占めており、うち午前が6割、午後が4割である。鹿ノ台の中からの乗車は 53％で、地区別の内訳（合計 100％で計算）

は、東地区 24%、西地区 31%、南地区 16%、北地区 29%である。
・8 月～11 月の累計では、1 日あたり平均利用者は 44.6 人であり、目標値の50人に届いていない。
・利用促進のためのキャンペーンを、スーパーいそかわの協賛を得て 12 月 26 日より開始する。内容は、いきいきいきホール前での乗車または降車で補助券 1 枚がもらえ（配布期間：12月26日～3月31日）、10 枚貯まるとスーパーいそかわで 500 円の買い物券（利用期間：1月4日～4月30日）がもらえるというものである。キャンペーンのチラシは現在回覧中である。連合ホームページと結ネット、および自治会の掲示板にもお知らせを掲示する。
・また、利用者への満足度調査アンケートを実施する。12 月 19 日～1 月20日の期間、アンケート調査員（コミバス委員）がバスに乗車してアンケートを手渡しし、社内の回収箱に入れてもらうか、いきいきホールの回収箱に投函してもらう。それとは別に、各桜美会に出向き、ご意見を伺う予定である。
・コミバスの運行は月・水・金の週3日だが、いそかわの特売日である火曜日に運行日を変更するのがよいかどうかも検討している。実現するには市の協議会の承認が必要なので、そのためにもアンケート結果を活用したい。
・夕方に子どもたちの習い事や塾でコミバスを利用したいという意見もあるが、子どもたちの移動時間もさまざまである上、夕方までバスを走らせると運転手さんの勤務時間が長くなり、予算内に収まらなくなるという問題もある。
・実証運行が今年8月から始まったが、季節的変動要因を含む丸1年間運行した後に評価してもらうことが適切だと考えられる。一方、運行の切れ間なく本格運行に移行するためには、数か月実証運行を延長する必要があるので、その方向で検討している。検討案がまとまれば、自治連合会に提案し、審議していただくことになる。

意見：キャンペーンのチラシを郵便局においてもらったらどうか。 ⇒ 承知した。

情報：萩の台のコミバスは利用が少ないため、自治会が乗車券を買い上げ、割引した乗車券を販売しているが、利用が伸び悩み、週5回の運行を週3回に減らすことを検討している。そうなれば2日間分が空くので、他の地域で使ってもらって構わないという話が出ている。。

奈良県域水道一体化（事業統合）について（説明）

・R7年度からの事業統合（企業団設立）を目指し、来年2月に基本協定を締結し、4月より法定協議会を発足させる予定となっている。市町村の水道事業の施設・管路・債務・内部留保金等すべてが企業団のものになる。各自治体の水道は事業認可を取り消されるので不可逆的な統合である。
・生駒市のウェブサイトには、県域水道一体化（事業統合）に参加予定の市町村による協議会が作成してきた「基本計画」と「基本協定」の最新バージョンが掲載されているので、公式見解はそちらを参照いただきたい。
・この県内の水道の事業統合に参加する26（27）市町村のうち、20町村が人口5万人以下、また15町村が赤字体質の水道事業であるため、これは「弱者救済

型」の事業統合である。
・事業統合のもう一つの目的は、用水事業を行っている県営水道の水利権（ダム水）が余っているため、自己水源（地下水・ため池）を持つ市町村水道に自己水源の利用を止めさせ、県水100％に転換させることである。2016年までは、18市町の自己水源が県内の水供給の47％を占めていた。
・実際、当初の計画では、県水の御所浄水場と桜井浄水場、それに奈良市の緑ヶ丘浄水場だけが残される予定で、その他の市町村所有の浄水場はすべて廃止される予定だった（簡易水道を除く）。だが、奈良市が離脱したため、生駒市の真弓浄水場の存続が決まった（それでも自己水源の割合は34％⇒16％に減る）。また、事業統合参加に否定的だった大和郡山の要求をのんで、同市の昭和浄水場も存続することになった。
・県の水あまりの主因は、実態を大幅に上回る人口予測に基づき整備され、2004年より利水が開始された大滝ダムである。
・国と県は、この「弱者救済」と「ダム水あまりの解消」を目指した事業統合を後押しするため、R7 年から10年間だけ合計414億の補助を行う。が、そのうち半分は広域化（事業統合）するために追加的に必要となる事業への補助なので、既存の水道施設・管路の更新費などへの補助は207億に留まる。11年目以降は、企業団内部で自前で「弱者救済」を行っていかねばならない。
・R3年度決算では、参加26（27）市町村のうち9町村が合計12．6億円の赤字を計上している。今は各町村の一般財源でこの赤字を補填しているが、事業統合後はすべて企業団の負担となる。今後30年間では、378億円の赤字に相当する。
・事業統合後、水道料金が統一されるが、統一料金よりも単独の場合の料金の方が安い葛城市・大淀町については、安い料金を維持できる（セグメント制）。
・水道料金は総括原価方式で計算し、5年ごとに見直すとされているが、事業統合後の料金の試算根拠が示されていない。大阪広域水道事業団の場合、R20年まで黒字の予定だったが R7 年には赤字に転落することになり、水道料金が前倒しで引き上げられる。同様のことが試算も公開していない奈良県の事業統合で生じない保障はない。
・他方、生駒市は県の試算を根拠に生駒単独の場合と比べて年6．3億円節約でき、30年間で191億円のメリットがあると公表している。しかし、県が公表している事業統合のメリットは総額684億円なので、これは人口10％の生駒市が全体の28％のメリットを享受するという主張である。また、奈良市の試算では、統合すれば30年間で奈良市は273億円も損をするという真逆の結果が出ている。
・事業統合によって、生駒市の管路更新のペースも年1％という実績を維持することができなくなる（12月9日都市建設委員会における水道部の説明）。生駒の水道は県内で唯一の健全経営体（債務ゼロ、内部留保45億）であり、独自で起債して更新を行うべきではないか。
・地下水がいつまであるか分からないという主張もあるが、全国では実績も多い雨水浸透枡（ます）の設置などを積極的に行うことで地下水の涵養を行っていけば、地下水は未来永劫利用できる資源となる。

意見：私たちはどうしたらよいのか。
回答：2月に協定に調印をしたとしても、3月議会で否決することはできる。4月の地方統一選を控えた時期なので、市民がこの問題に強く関心を持っていると

いうことを議員や市長に伝えていっていただければ、より真剣な議論が期待できるのではないかと思う。

意見：奈良市の試算と生駒市の試算が違うのはどうしてか。県の試算の根拠を出してもらって、比較しなければ何も分からない。市の数値を鵜呑みにすることはできない。

意見：くろんど池（農業用水）の水道水源としての利用なども考えて自己水源を増やすべきではないか。
回答：それは良いアイデアだと思う。だが、他の市町も事業統合において自己水源の浄水場を廃止することになっており、生駒市だけ自己水源を増やす提案は受け入れられないだろう。それができるのは、市単独の水道事業を残せた場合に限られる。

次回

日時：　令和5年1月22日（日）　13：30～16：00
「南北」の構成員および幹事は13：15集合

場所：　西集会所

以上